

2/15 神田

学術会議会員選考に第三者委

「存在意義を損なう」

歴代会長が政権方針批判



記者会見する広渡清吾東大名誉教授=14日午後、東京・内幸町の日本記者クラブ

（会見）は、いずれも東大名譽教授の黒川清氏と大西隆氏も出席した。

極寿一前会長も「権力者が理由を述べずに命令を下すことがまかり通る社会が、民主主義から遠ざかっていくのは必定だ。忖度政治を助長するもので、理由を明確に述べるべきだ」と訴えた。

日本学術会議の会長を務めた広渡清吾東大名誉教授ら4人が14日、東京都内の日本記者クラブで記者会見し、会員選考に意見を述べる第三者委員会を新設するとの岸田政権の方針を巡り、「学者をひとまとめにして政府に役立つ集団にしたいというのは間違いだ」などと批判した。

学術会議の見直し論議では、菅義偉前首相による新会員候補6人の任命指名を機に浮上。政権は指名の理由を明らかにせず、一方で選考を正当化するものだと指摘を正當化するものだと

の透明性を高めるとして閣連法の改正案を今国会に提出する構えを見せてくる。広渡氏は、第三者委は任命指名の「範囲を狭め」で、オンラインで参加した山

指摘。政権の方針は、学術的見地から独立して政府にアドバイスする学術会議の存在意義を損なうものだと批判した。